

平成 29 年度  
横浜市立高等学校  
自己評価書

横浜市立横浜サイエンスフロンティア  
高等学校

## <学校情報>

1 課程・学科 全日制課程・理数科

2 学校長 栗原峰夫 (平成30年4月1日現在 在職7年目)

### 3 学校教育目標

- 1 広い視野、高い視点、多面的な見方を身につけさせ、ものごとに対する柔軟な思考力・解析力を培い、論理的頭脳を養う。
- 2 旺盛な探究力、豊かな創造力、世界に通じるコミュニケーション能力、自立力を培うことによって、よりよく生きる知恵を養う。
- 3 社会における己の使命を自覚し、積極的に社会に貢献しようとする志を養う。
- 4 人格を陶冶し、有為な社会の形成者としての品格を養う。
- 5 幅広い知識と教養を身につけ、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな心身を養う。

### 4 教育方針

驚きと感動による知の探究

《教育理念》

学問を広く深く学ぼうとする精神と態度を培いながら、生徒一人ひとりが持つ潜在的な独創性を引き出し、日本の将来を支える論理的な思考力と鋭敏な感性をはぐくみ、先端的な科学の知識・技術、技能を活用して、世界で幅広く活躍する人間を育成する。

### 5 教職員数 (平成29年12月1日現在)

学校長	<u>1</u>	校長代理	<u>1</u>	副校長	<u>2</u>	事務長	<u>1</u>
教諭	<u>69</u>	(男	<u>49</u>	、女	<u>20</u>	養護教諭	<u>2</u>
実習助手	<u>1</u>	事務職員	<u>3</u>	技能職員	<u>PFI</u>		
AET	<u>2</u>	非常勤講師	<u>10</u>	管理員	<u>PFI</u>		

## 6 生徒在籍数（平成 29 年 12 月 1 日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	6	171	67	238
2	6	183	56	239
3	6	185	48	233
4	1	1	0	1
合計	19	540	171	711

## 7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		80	80	100%
生徒	1年	238	233	97.9%
	2年	238	238	100%
	3年	233	227	97.4%
	4年	1	0	0%
	合計	710	698	98.3%
保護者		710	665	93.7%

## 8 自己評価実施日

教職員	平成 30 年 1 月 5 日～平成 30 年 1 月 12 日
生徒	平成 29 年 12 月 25 日～平成 30 年 1 月 12 日
保護者	平成 30 年 1 月 9 日～平成 30 年 1 月 12 日
地域	平成 29 年 11 月 17 日～平成 29 年 1 月 29 日

## 9 集計・分析期間

平成 30 年 1 月 23 日～平成 30 年 2 月 10 日
-----------------------------------

## 10 自己評価書の公表方法・時期

○集計結果は平成 30 年 2 月下旬、分析については、平成 30 年 5 月中旬以降  
本校ホームページで公表の予定

## <自己評価>

### 1 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

#### □魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 1, 2, 3, 9, 10, 13, 14 生徒 I-1, 6 保護者 I-1 II-1)

<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立高校のパイオニア校、理数科専門学科高校として、次代を担うグローバルな視点をもつ科学技術人材を育成するために魅力ある6年間の中高一貫教育校としての教育課程を編成している。特に学校設定教科「サイエンスリテラシー」により自ら学ぶ力を身につけ、先端科学の様々な分野の学習を深め課題探究型学習を実践している。29年度は「サイエンスリテラシーI」の取組内容を中心に、より一層生徒が主体的・能動的に学ぶことができるカリキュラムの改革を行った。</li> <li>・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定2期目の3年目、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けて4年目を迎え、両指定を融合し「サイエンスの素養」と「コミュニケーション力」を育成するための課題研究の充実を図るため、大学や企業等の科学技術顧問との連携により、専門的な指導をいただくとともに、国内外の大会や発表会を積極的に活用した。</li> <li>・進学指導重点校として、生徒の進路希望実現のため、進路指導部を中心に各年次と連携を図り、3年間を見据えた計画をたて、土曜講習や長期休業期間の講習等を積極的に行った。さらに高大接続や学習指導要領改訂にともなう教育改革について教職員を対象とした定期的な研修会を実施し、共通理解を深めた。</li> </ul>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の使命を理解して、魅力ある高校作りに前向きに取り組む教職員が90%以上であり、十分に実現できていると判断した教職員が28年度と比べポイントが上昇している。これは本校の教育理念や内外からの大きな期待を教職員がしっかりと理解し、実践している結果である。 (1 ページ教職員アンケート 1, 2, 3)</li> <li>・本校の中心である課題研究を行う学校設定科目「サイエンスリテラシーI」の取組内容の改革を実施したことにより、生徒が主体的に学ぶ姿勢をより高く持つようになった。(3 ページ生徒アンケート 1-1年)さらに、「サイエンスリテラシーII」、「グローバルスタディII」における個人研究を通して、自らが課題を設定し、年間指導計画をもとに教職員の調整や生徒への意識づけを丁寧に行い、1年間探究活動に取り組んだことは大きな成果である。また、新たな海外研修の機会も設けることができ、充実したプログラムを行うことができている。 (2 ページ教職員アンケート 13, 14, 7 ページ保護者アンケート教育活動等について 1)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導重点校として、国公立大学をはじめとする難関大学への進学実績において、平成 29 年度卒業生は 28 年度をさらに上回る成果をあげた。これは、学校全体で進路指導の充実や生徒の進路実現のため、生徒に関する情報の共有・周知による生徒一人ひとりを丁寧に指導していることや卒業年次担当者による振り返りとアドバイスなど学校全体として教育の質を高める実践研究を行うことにより、学校全体の指導力が着実に向上し続けている。(1 ページ教職員アンケート 9, 10 2 ページ 14 4 ページ生徒アンケート 6 7 ページ保護者アンケート I -2, 8 ページ II -1)</li> </ul> <p>さらに、進路指導部を中心に高大接続改革に関わる教育改革の報告会や研修会を実施し、今まで以上に教科間での連携が強化されるとともに教科内での指導内容や指導方法の工夫が見られた。</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 32 年以降の高大接続や学習指導要領の改訂に関わる教育改革について、教職員が理解を深め、教育現場に求められる学力や資質をどのように生徒に獲得させるのか、教員の指導力の質の向上をどのように推進していくか、今まで以上に教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるような研修体制の整備と工夫が必要である。さらに本校が取り組んでいる課題研究についてもグローバル人材育成の観点からも本校の特性を生かし、精度を高めた指導が必要である。</li> <li>・平成 30 年度には開校 10 年を迎えるなか、卒業生の本校における学習状況と模試等のデータを分析・検証することで、今後の進学指導に生かせる有効なデータ分析を行うとともに、そのデータを活用し入学者選抜検査の選考基準についても検討する必要がある。</li> </ul>
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の目指す教育について、全教職員が認識を共有し、同じ方向性を持って指導にあたるように、職員会議や職員研修会等、さまざまな機会を通して周知を図り共通理解を深めていく。</li> <li>・進路実績については、進路指導部と教務部とが連携し、科目選択や模試データ分析を含めた在校中の学習分析を通して、本校の学習指導や進路指導のあり方をデータに基づき検証する。</li> <li>・本校が期待する生徒の受入について、入学者選抜の結果データを検証し、入学後の学習状況や進路実績の相関関係等を分析し、選考基準等の見直しを図っていく。</li> <li>・SSH、SGH 両方の指定を受けている学校として、「サイエンスグローバル事務局」を中心に SL 運営委員会や GS 運営委員会との連携を踏まえ事業の企画・運営を推進する。</li> </ul>

## 2 教育活動の状況

### □教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 2, 3, 4, 5, 6, 18 生徒 I-1 保護者 I-2)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次の選択科目ガイダンスについては進路指導部と連携し、1期生から6期生までの選択科目選択数と進路先の関係を具体的に示し科目選択の参考になるよう提示した。</li> <li>・2年次の選択科目ガイダンスでは3年次の科目選択に繋がるよう科目の内容と科目のつながりや大学の推薦基準等との関連など具体例を挙げて説明した。</li> <li>・28年度に続き科目選択にしっかりと時間をかけられるよう、予備調査を夏季休業前に実施し調査結果の提出を夏季休業後にした。</li> <li>・全生徒に授業評価を行ってもらい、それをできる限り素早くフィードバックするよう集計にスキャナーなどの機器を導入し年度後半の授業に評価結果を生かせる工夫を行った。</li> <li>・28年度に引き続き、「高等学校教育を通じて育成すべき資質と能力」をテーマに全職員参加で校内授業研修を実施し、授業改善に努めた。</li> </ul>
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程については28年度同様、学校教育目標・学校経営目標に基づきながら、生徒の希望進路実現や興味・関心を満たす科目の配置ができたと考えられる。アンケート結果(1ページ教職員アンケート2, 3, 5, 3ページ生徒アンケートI-1, 7ページ保護者アンケートI-2)特に、1ページ教職員アンケート2は11%、3は5%、28年度より「十分に実現できている」の割合が増えている。</li> <li>これは、29年度よりSLIの内容の大幅な見直しが行われ、生徒がより主体的に授業に参加できるようになった、そのような改善がこの結果に結びついたと思われる。</li> <li>・28年度では選択科目登録数が27年度と比較し若干少なめになっていたが、29年度では27年度の水準に戻ってきた。</li> <li>これは、選択科目ガイダンス、科目選択の面談を通して、進路の選択肢を狭めない方向で考えることが浸透してきたためと考えられる。(3ページ生徒アンケートI-1で28年度より「そう思う」が5%増えている)</li> </ul>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート1ページ 4「学校教育目標・重点目標の実現に向けて」では28年度より「十分に実現できている」が6%減少している。ここではほかに「判断できない」が28年度の0%に対し4%となっていて増えている。ここ数年徐々に設立当時の職員が減少し、設立時の目標やこの学校独特の教育課程等が十分に理解されていないことも考えられる。今後、研修会等を通じて理解を深めていく機会を作る必要がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート 2 ページ 18「研究・研修体制について」では 28 年度より 5%減少している。これは 28 年度同様の日程で行ったため、授業者がほぼ昨年と同じになり他の授業見学ができなかったことが終了後のアンケートでも多く指摘されていたので、次年度は日程、研修会の形態について今年度の反省を踏まえ検討する必要である。</li> <li>ただし、教職員アンケート 1 ページ 5「指導内容、指導方法の工夫」については「十分に実現できている」が 28 年度より 7%増加している。これは研修会だけに頼らずそれぞれの教科が独自の工夫をしているためと思われるが、一昨年より実施している授業研修も一つの機会となっていると考えられる。</li> <li>・大学入試改革、新学習指導要領など、職員での情報共有し理数科独自の対応ができるよう研修の機会を設けていくことが重要な課題である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対しては科目選択説明会や進路集会、保護者に対しては各年次の保護者会等において、本校の教育課程の特色の説明を丁寧に行う。また、引き続き卒業生の科目選択状況と進路状況の分析を行い、科目選択指導に活用する。</li> <li>・校内授業研修の内容、時期の見直しを行い新学習指導要領への対応を念頭に置いたものとしていく。また初任者、2 年目、3 年目研修等における校内実施の研究授業を活用して授業研修を充実させる。</li> <li>・市教育課程研究協議会やその他の研修会において新学習指導要領や大学入試改革などの最新の情報を収集し、職員研修会を実施する。また、教育課程委員会を中心に各教科へ段階的にそれらに対応するための課題を提案していく。</li> </ul>

## □進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10 生徒 6 保護者Ⅱ-1 )

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な学習について、各生徒が振り返る取組を各年次で行った。</li> <li>・1 年次宿泊研修、2 年次進路ガイダンス、卒業生による進路フォーラム、医療講演など、進路について考える機会を設けた。</li> <li>・校外での模擬試験参加を計画的に行った。</li> <li>・土曜講習、夏期講習、特別時間割などで、通常の授業とは異なる講習を教員に設定していただくことで、多様な学習の機会を設けた。</li> <li>・年次集会や年次保護者会において、学力状況や進路情報、今後の課題など、教員や予備校関係者による情報提供を行った。</li> <li>・教員に対し、進路報告会で生徒の進路状況についての分析資料を提供した。また、高大接続改革についての研修では各方面からの情報を提供して本校としての課題を提示するなどした。</li> </ul>
----	---

<p><b>成 果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次が進むにつれて進路に関する情報の理解が進んでいるのは、自己の振り返りを行って様々な進路行事を通じて進路について情報収集を行った成果である。（生徒集計結果 4 ページ）</li> <li>・保護者も同様に年次進行につれ評価が高まっていくのは、年次集会などで情報提供を積み重ねた成果である。（保護者集計結果 8 ページ）</li> <li>・多くの教職員が指導を肯定的に評価しているのは、LHR などでの指導をはじめ多くの講習について、学校全体が取り組んでいることの成果である。（教職員集計結果 1 ページ）</li> <li>・経年変化において、生徒、保護者ともに昨年を上回る評価を得られたのは、多くの取り組みを丁寧に見直して改善できた成果である。</li> </ul>
<p><b>課 題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の経年変化でわずかながら下降がみられる。学校全体での組織的な指導を目指して、進路指導部の取り組みについての共有などをさらに進めていく必要がある。</li> <li>・高大接続改革の運用状況を把握しながら必要な対応をすることが、平成 30 年度の大きな課題である。</li> <li>・1 年次の校内研修を次年次に継続できる内容にすること、加えて、平成 31 年度の研修の宿泊についての検討が必要である。</li> </ul>
<p><b>改善策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議、年次会議を通して進路指導に関する行事の目的を明確に伝えていく。</li> <li>・高大接続改革に関しては、校外の説明会、シンポジウムにできる限り出席し情報収集を行う。情報を整理し確定した事項に関して、生徒、保護者、職員に対して情報提供を行う。10 期生に対しては、e ポートフォリオや英語 4 機能外部試験などできるものから対策を講じていく。</li> <li>・1 年次年度当初の研修会は、30 年度の反省をもとに高大接続改革を見据えながら、校内で実施する。</li> </ul>



### 3 学校経営の状況

#### □組織運営及び教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 5, 13, 14, 15, 18、生徒 4, 5、保護者 3)

<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年度に附属中学校が開校したことにより、今まで以上に教育理念、教育方針、教育目標について、全教職員が共通理解を持ち、一体となって教育活動にあたるように学校経営に努めた。とくに分掌や委員会の役割分担、業務の見直しなどを組織的に取り組んだ。</li> <li>積極的に研究授業を行い、参観を通して授業改善を行うとともに、生徒たちの実態を観察することで生徒への理解を深める取組を行った。</li> <li>高大接続・学習指導要領の改訂にともなう教育改革に向けて、A L 型学習や探究型学習の推進を図り、組織的かつ計画的にカリキュラムマネジメントを実現するために職員研修会を開催し、共通理解を深めるとともに、多くの職員に校外の研修会への参加を促した。</li> </ul>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に 1 回、中高合同の職員研修会を開催し、本校の教育理念や教育目標を共有するとともに、体罰、いじめ、SNS 関係、発達障害等、生徒指導にかかわる研修を行った。それにより生徒一人ひとりに寄り添った指導につなげることができた。また、高大接続に関わる教育改革の情報を適切に教職員に広めており、校外で行われる授業研究会等に積極的に参加した。(1 ページ教職員アンケート 13, 14, 2 ページ 15, 18 生徒アンケート 3 ページ 4, 4 ページ 5 7 ページ保護者アンケート 3)</li> <li>教育課程委員会が中心となり、組織的に研究授業を行い、見学を通して授業改善を行うとともに、生徒たちの実態を観察することで生徒への理解を深める取組を行った。(1 ページ教職員アンケート 5)</li> <li>平成 27 年度より継続して行われてきた分掌の業務内容分担の見直しにより本校の教育の特性がより生かせるものとなってきた。そこで 29 年度は委員会の役割・業務内容を整理し、明確な目的をもった委員会組織にすることで、教職員相互の連携を図った。(2 ページ教職員アンケート 15)</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究・研修体制が整えられているかの教職員アンケート (2 ページ 18) において、24・25 年度の「十分に実現できている」の 3% に比べれば、ポイントは上昇してはいるものの、他の項目と比べると実現できているという評価が低い。業務量が他校に比べて多いとはいえ、教員の力量向上に努める環境を整えることが課題である。</li> <li>職員組織について、意欲を持って業務に取り組むことについて、実現できていないという回答が 7 ポイント上昇した。適材適所による分掌配置を行うとともに、仕事の偏りをなくすよう仕事分担を心がける等が課題である。(2 ページ教職員アンケート 15)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開校から10年を迎えようとする現在、本校の黎明期を支えた教職員が異動・退職するなかで、本校の特性を生かした様々な取組について、その本来的な意義や必要性を再評価・検討することが必要である。また、本校を初任とする教員も多くいる現状から、継続・発展に力を注げる教員の確保と力量の向上が必要である。</li> <li>・年次運営の情報の共有化は、80ポイントを超えてはいるものの十分に満足できているが28年度より7ポイント下降していることについて、指導上支援を必要とする生徒の情報を丁寧に共有することが引き続き必要である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年は、本校設立時の教員の多くが異動する時期になり、逆に他校からの異動者が増えている。新たに着任する教職員に対して本校の設立理念を継承し、全職員が意欲をもって業務に取り組むことができるよう、日常のコミュニケーションを大切にするとともに職員会議や職員研修会等を通じて共通理解を図っていく。</li> <li>・附属中学校も開校2年目を迎え職員の数も増えている。中・高職員の融合と中高一貫教育校の充実に向けて、引き続き校務分掌や校内委員会の業務の整備を行う。</li> <li>・教職員の資質・能力の向上を図るため、限られた時間の中でテーマを明確にした有効な研修会を毎月1回設定する。具体的には、生徒理解研修や授業力向上研修、不祥事防止研修等を実施する。</li> </ul>

## □学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員27、保護者Ⅱ-5、生徒Ⅱ-5、地域9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部への情報公開事業（学校説明会、オープンスクール、合同説明会）において、本校の特色の理解強化を図るための改善に努め、学校案内、Science Frontier Newsなどの内容の充実と改善に努めた。</li> <li>・ホームページの各ページの確認と訂正、そして29年度の更新について、原稿内容は管理職が確認し、タイムリーに更新するよう努めた。</li> <li>・保護者・生徒向けの紙面での情報（年次だより・月間予定・保健室だより・SCIENCE LIBRARY・他）は、例年通り、タイムリーに発信するよう努めた。</li> </ul>
----	---

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校説明会の申込、オープンスクールの中학생向けサイエンス体験の申し込みをWeb申し込みにしたことによって、来校者が増大したにもかかわらず、当日の受付から入場へ流れがスムーズにすることができた。</li> <li>・ 学校案内写真入れ替えをすることによって、新鮮さのある冊子を作成することができた。</li> <li>・ ホームページの更新作業は思いのほか複雑で、横浜市のセキュリティーシステム強化の影響もあって、時間のかかる作業となったが、28年度同様タイムリーに更新し、29年度もDiaryは生徒の活動とその成果を多く発信できた。</li> <li>・ 保護者・生徒に向けての公開すべき情報は、29年度もおおむね満足いただける対応ができたと考える。タイムリーに情報を提供するために、原稿作成に対する職員の協力体制が円滑に進んだ成果である。(1ページ教職員アンケート27、9ページ保護者アンケートⅡ-5)</li> <li>・ 年度初めに、ホームページ部活動のページの改善・更新することができた。</li> </ul>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な情報をタイムリーに提供することに各部署で努めてきたが、生徒から保護者へ伝わらない現状が28年度も少なからずあるようである。紙面配布による情報をスムーズに伝えることの大切さを生徒に理解してもらう指導を加えていく必要がある。</li> <li>・ ホームページは広い範囲に情報を公開しているもので、保護者への連絡機関にはなりえないことをご理解いただけていないと思われるご意見をいただいている。記事は本校関係者だけではなく、多くの目に触れるもので、内容は十分吟味して作成しているものであることをさらに保護者の方にご理解いただく必要がある。</li> </ul>
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 29年度と同様に、スピーディーな情報発信を進め、サイエンスに特化した特色ある教育活動を、さらに広く周知していくために、積極的に情報公開していく。</li> <li>・ ホームページ記事内容も十分吟味して作成していくとともに、内容の更新・修正を進める。</li> <li>・ ホームページは多くの方の目に触れるものである性格上、保護者・生徒への連絡機関とはなりえないことを伝える。</li> <li>・ 保護者に対しては、保護者会開催にあわせて、配布物の配布状況を伝え、さまざまな場面を活用し、大切な情報を伝える取り組みを行う。</li> <li>・ 生徒には、配布物の目的を配布時に説明し、情報を活用してほしいことを積極的に伝える。</li> </ul>

#### 4 いじめへの対応に関する項目

##### □いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 28)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初、全教職員に「いじめ防止基本方針」の周知徹底をおこなった。</li> <li>・年2回の生徒向けアンケートを教職員で点検・情報共有し、早期対応を行った。</li> <li>・情報収集・共有を迅速に行った。指導方針はいじめ防止対策委員会で決定し、組織的に対応した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初、教職員にいじめに対する組織的な対応を周知したことにより、教職員が迷わず指導を行うことができた。さらにいじめ事案の発生時には早期対応をとることができた。</li> <li>・生徒へのアンケートをきめ細かく点検することで、教職員の生徒理解につながった。</li> <li>・組織的な対応をとることにより、教職員一人ひとりが高い意識をもっていじめ問題に取り組むことができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度10月によこはましいじめ防止基本方針が改定された。それにともない本校でも平成29年度2月末までに基本方針の改定をおこなった。教職員へのさらなる周知が必要である。</li> <li>・生徒への聞き取りの仕方など、より一層の生徒理解（傾聴）に向けた研修が必要である。</li> <li>・いじめへの指導と特別支援教育をどのようにつなげていくかが課題である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度の初めに本校のいじめ防止基本方針を教職員で共有する。あわせて特別支援教育の確認も行う。</li> <li>・教職員向けの生徒指導研修を行い、教職員のさらなる生徒理解を目指すとともに、生徒理解の第一歩であるあいさつを教職員も心がけ、生徒への普段の声掛けの充実させることを研修の中で確認する。</li> </ul>